

諫早制裁金支払いへ

国は後手問題放置

解説

6日の福岡高裁
決定も国に制裁金
支払いを命じた。諫早干拓
をめぐる開闢訴訟は、漁業
者側申し立てによる佐賀地
裁、営農者側申し立てによ
る長崎地裁と3件続いて認
められた。それぞれ判決や
仮処分決定を根拠としてい
る以上、相反する判断であ
っても制裁金を命じる司法
の立場は揺るがない。最高

裁でも判断が留る可能性は
高いとは言えず、政府は諫
早の開闢問題の早期解決を
急ぐべきだ。

いずれの審理でも国は①
相反する司法判断で身動
きできない②準備工事が
できず、開闢すれば大変な
被害が生じると、司法へ
の脅しとも救いを求めた
ともとれるような主張を
したが、3裁判所ともに認

めず、福岡高裁は「判決確
定前に主張すべき内容で、
議論の蒸し返し」と一蹴し
た。

国の対応は後手に回り統
け、問題を放置しているよ
うにすら見える。背景には
「民主党政権が、開闢を命
じた福岡高裁判決で上告せ
ず、確定させたため」との
思いや、もともと干拓事業
を推進したという立場があ
るのかもしれない。

しかし、法治国家である
以上、福岡高裁の確定判決
の効力が消えることはな
い。政府はこの前提に立ち、
漁業者、営農者の間に入っ

て解決を急ぐ以外に道はな
い。

開闢期限は11日に迫り、
制裁金支払いは濃厚となっ
た。未解決のままであれば
年間約1億8千万円に上る
税金の支出を強いられる異
例の事態を招いた責任の大
きさを真摯（しんしん）に受
け止め、姿勢を改めるべき
だろう。

漁業者「当たり前前の判決」

「当たり前前のことが当た
り前に認められた」。福岡高
裁は6日、国営諫早干拓
事業の開闢調査をしない国
に、制裁金を支払わせる決
定を下した。早期開闢を期
待する有明海の漁業者らは
ほっとした表情を浮かべた
が、反対する干拓地の営農
者からは憤りの声が上がっ
た。

福岡高裁前では年後3時
すぎ、弁護士らが入り「再び
国を断罪」などと書いた紙
を掲げた。小雨が降る中で
待ち構えていた漁業者や支
援者約40人は「やった」と
声を上げ、拳を突き上げた
り、握手を交わしたりして
喜びを分かち合った。
赤潮による漁業不振に苦
しんでいた佐賀県太良町の
だが4日には長崎地裁
が、開闢した場合に国に制
裁金を支払わせるという、
今回と逆の決定をしたほか
り。干拓地で農業を営む荒
木一幸さん（37）は「高裁
決定は予想していたが、ま
るでいちゃこつた。準備
工事と言っても、1パーセ
ントでも農業被害の可能性
があれば反対だ」と憤った。

審理統一し和解を

平野哲郎・立命館大教授（民
事執行法）の話 佐賀地裁決定
が福岡高裁で維持されたが、長
崎地裁決定も維持されれば、高
裁レベルで矛盾した判断が出る
ことになる。最高裁が許可抗告
に対する決定で判断を統一する
しかない。長崎地裁での開闢差
し止め訴訟と佐賀地裁での国に
よる請求異議訴訟でも矛盾した
判決が出る可能性がある。混乱
を防止するためにも裁判所間で
協議し、どちらかの裁判所に事
件を移送して審理を統一して、
自治体も加えた和解を目指すべ
きだ。